なにわ名物開発研究会NEWS

＜第15号＞
2004年10月6日発行

発行
なにわ名物開発研究会

編集
広報部

〒542-0076
大阪市中央区難波1-7-2
SENOYAビル3F
TEL・FAX 06-6213-5554
http://www.naniwa-meibutsu.com/

大阪中のいちびり集う！

7月28日（なにわの日）、第7回なにわ大賞「も～て～式（贈呈式）」が開かれた。今年は登録有形文化財の大阪倶楽部が会場。特別賞受賞の「民の謡」森田玲さんの笛の音が響くなか、厳かな雰囲気で開会。いずれ劣らぬなにわのいちびり達が順に登壇した。賞状を読み上げる難波利三選考委員長が「あんたは偉い」「あんたも偉い」と、一人ひとりに賛辞を贈ると、場内は笑いの渦に。大賞受賞は艶やかな着物姿で登場した原田彰子さん。昨年十周年を迎えた「熟塾」代表で「次の十年も頑張ります」と述べ喝采を浴びた。「あの時は舞い上がって自分でも驚いた。でもやりたい事はまだまだたくさんあるから」とは後の弁。商社勤務の寸暇を惜しみ、今後もなにわ文化の発信を続けられることだろう。彼女を祝おうと多くの塾生がパーティに駆け付け記念撮影が行われ、その傍らには本年度運営チームリーダーを務めた岸本敏裕さん（岸本吉二商店）提供の菰樽が鎮座していた。

トザイトーザイ！　パーティが佳境に入ったところで鳴り物入りで登場したのは、（財）大阪21世紀協会賞受賞の「東西屋」林幸治郎さん。ちんどんパフォーマンスでサマーパーティ（8月例会）のチラシを撒きつつ、「何で私が受賞できたのかわかりました。これをやらせる為やったんや」と、出席者を笑わせる一幕もあった。

そして特筆すべきは新設の石濱恒夫記念賞。今年1月亡くなられた故人がこよなく愛した法善寺横丁。その入口にある「えび家」の主人として、自ら罹災しながらも復興の先頭に立って来られた川久保建明さんが、この記念賞を受賞した。

ほかにも、正真正銘のいちびりが勢ぞろい。一覧表をご高覧の上、さらに来年のなにわ大賞へ夢を馳せて頂きたい。

オダサク倶楽部　井村　身恒

大阪も負けてられまへん

別府に道頓堀がある。そう聞かされて驚いた。昨年、生誕90年を迎えた大阪生まれの夭逝の作家、織田作之助。代表作の夫婦善哉は有名だが、意外とほかの作品は知られていない。その『オダサク』に別府三部作と呼ばれる作品がある。そして、この地を終の棲家とした実姉の千代を通じても、浅からぬ縁で別府は結ばれていたのだった。

別府は、いまも全国にその名を知られる温泉町であり、私たち団塊世代にとっては、修学旅行先として思い出の地でもある。しかし、湯布院、黒川など周辺の温泉まちが新たなブランド化に成功したのに比べ、いささか取り残されてきた観光都市。失礼ながらそんなイメージをいだいていた。

その別府が、あらたな集客魅力の創出に取り組み、いま再生を図っている。「オンパク～別府八湯温泉博覧会」の開催を機に、観光業者や、この町を愛する多くの町衆があつまり、さまざまな活性化事業に挑戦している。そのまちおこしの資源の一つが「オダサク」、そして彼が描いた大阪の法善寺横丁や別府流川界隈の「路地裏の魅力」なのである。

オダサク、そして路地裏文化の本場、「大阪」も負けてられまへんで！

株式会社せのや　野杁　育郎

注目の新商品大阪ベジせんの巻

絶滅寸前のなにわの伝統野菜を大阪名物として復活させるんジャーッ！

境界なしの自由自在な発想を融合しそれを形にする、なにわ名物開発考社認定商品。今回は最も注目度の高い新商品、大阪ベジせん（なにわの伝統野菜入りカレー風味　525円10枚入）のご紹介。大阪ベジせんのメイン素材は、今まで大阪以外ではあまり認知されていなかった、なにわの伝統野菜。選ばれたのは6種類の大阪野菜（勝間南瓜・水茄子・天王寺蕪・毛馬胡瓜・田辺大根・金時人参）、それをカレーという馴染み深い味にしたせんべいです。課題だったのは、伝統という重みのあるテーマをより気軽に親しみやすくする工夫。反面、なにわの伝統を希薄にしないという発想のバランス感覚。幾度も繰り返される商品会議で飛び交うアイデア。しかしそこはなにわ名物ならでは。まじめ一辺倒では生まれない、ユーモアたっぷりでいて、なおかつなにわの伝統野菜を知ってもらおうといういちびり商品が開発されました。パッケージに散りばめられたのは、コテコテなシャレと、遊び心満載の野菜キャラクター「ベジ戦隊うまいんジャー」。6種類のキャラクターがカードになって（5人のうまいんジャー＋シークレット）、1袋に1枚入っています。カードの裏面には、なにわの伝統野菜についての説明も書かれています。子供のおやつにはもちろん、大人の方にも、一度口にするとなぜかくせになってしまう不思議なせんべい。ぜひ一度ご賞味ください。

有限会社アシスト　牧野　昌弘

▲大阪ベジせん

▼通天閣マスコットシリーズ

▲大阪おみくじどないやねんシリーズ

▼大阪弁でかペン

▲なにわの伝統野菜入りカレーせんべい

▲たこベエ（マヨネーズソース味）

▲きっと勝つサンド

▲大阪弁ライター（ガスライター版）

▲ハリセン付大阪弁携帯クリーナー

16年度 第一回 なにわ名物開発考社 認定商品のご紹介

5月 総会 定時総会・記念講演会・ネットワークパーティ 5/24

平成16年度総会が5月24日道頓堀ホテルで開催され、多数の会員や来賓その他大勢のオブザーバーの方々の参加を得て、成功裏に終了しました。

第一部は総会議案審議で野杁代表幹事が議長となり審議が進められ、平成15年度事業報告、同会計報告、平成16年度事業計画案、同収支予算案、会則の一部改定が全員異議なく承認されました。事業経過と今年度の計画は「異業種ネットワーク」としてのなにわ名物開発研究会の存在と役割が、大きな大きな輪になり、名実ともに大阪経済の牽引力になってきたのを示しています。

第二部では「ナニワ系経済学」の著者である西村晃先生の「大阪よ自信と誇りをもて」と題するテーマでご講演頂きました。折も折、先生の著書「ナニワ系経済学」の発売日とも重なり、熱気溢れるご講演ぶりに参加者一応に元気をもらった思いでした。先生は経済評論、マーケティングの第一人者としてご講演や著書でつとに有名ですが、大阪に対する強い関心と評価は我々がともすると「大阪の沈滞・自信喪失」に陥りがちなのを「大阪発新製品が全国の市場を席巻している」「大阪の商いのやり方が感動を生んでいる」「大阪よ自信を持て！」と熱きエールを送っていただきました。

第三部の「ネットワークパーティ」に入るや「なにわ名物」のパワーは全開。始めて会った人も「なにわ名物」の仲間としてたちまちに「数年来の知り合いに」これこそネットワークの広がりと深まりの演出効果。

お世話頂いた方々に感謝。国土交通省や大阪府、大阪市の皆様も駆けつけてきて頂き、ご講演頂いた西村先生も最後までご一緒に、わいわいがやがや時の経つのも忘れてしまいました。最後は恒例の小南陵師匠の大阪締めでお開きとなった次第でした。

（有）経営支援オフィスB・A・N　石川　文雄

6月 一般例会 「走れガリバー君のプロデューサー 関西テレビ、稲田聖子さん語る！」 6/23

関西テレビプロデューサー稲田聖子さんは、走れガリバーくん・痛快エブリデーなど制作して10年目。やっている中で女性のほうが元気があり、しゃべりがうまく、男性は女性に対してコンプレクスがあると感じている。

番組的に大阪は予算がつかないため、素人さんか番組が多い。そして、大阪と東京では視聴者の好みがまったく違う。大阪はベタでわかりやすいものを好むタイプで東京はおしゃれ、情報先取りものを好むタイプ。2時台の帯番組は東京的で芸能・情報・ランキングの固まりだ。

TV取材の対象となるためには、まず映像になるかどうかがポイントだ。それと、放送作家にはブレーンがいて、彼らは新聞からネタ拾いをしている。だから、はじめに新聞に載せることを考えることが大事だ。ネタになるものはどこの会社の中にもある。つまり、会社の中に、金はいっぱい落ちている。拾うか拾わないかはあんた次第だ。

笑いあり、鋭い指摘あり…。濃密なトークが繰り広げられた。

株式会社いわさき　岩崎　雅明

8月 特別例会 今年も伝説が生まれました！ 総務部担当「サマーパーティ」 8/20

会場の「グロッタ デッ ラモーレ」はまだ新しく、超穴場のレストラン。総務部が極秘で準備を行い、当日はサプライズな余興の連続。野村・島野両副代表と総務部岸本氏によるトリオ漫才で「場内が涼しくなった」あと、マル秘ゲストが登場。現れたのは野村副代表の奥さん、お嬢さん、2人のお孫さん。かぶりもので汗だくのうえに、冷や汗をかきまくる野村副代表。総務部の粋な計らい（いじめ？）に感激して、泣き出さんばかりでした。続いて見事なアコーディオン演奏を披露してくれたのが、総務部が発掘したスター、シャンソン銀平（瀧川氏）。この方にこんな芸があったとは、在籍年数が長い会員さんも知らなかったのでは？

大抽選会では、協賛各社の人気商品が並び、参加者数より賞品の数が多いほど。さらにレストランの食事券、阪神戦観戦チケット、野杁代表の会社からは、お正月にタレント気分を味わえる「特別な権利」まで飛び出し、当選者が歓喜する場面もありました。

HAPPY　灰谷　幸

■参加者の声■

楽しかった、面白かった（多数）
いい料理が出てたよ（O事務局次長）
入会します（Mさん、Tさん）
酔えなかった…（N村副代表）

新入会員紹介

〈正会員〉

家福（かふく）

㈱大阪の味本舗

会員短信

特別会員の旭堂小南陵さんの独演会が開催されます。

第23回 旭堂小南陵独演会
～講談の読みと
小説の朗読を聞き比べる会～
10月24日（日）ワッハホール
18:30開演（18:00会場）
前売り2,500円／当日3,000円

◇お問い合わせ
（有）オフィス.キミコ
TEL 0798-70-7616

代表幹事の野杁育郎さん（株式会社せのや）は、9月3日（金）に「いちびり庵 アメリカ村店」をオープン。

いちびり庵 アメリカ村店
〒542-0086
大阪市中央区西心斎橋1-7-11
TEL 06-6245-0728

住所及び会社名変更

●株式会社ヤングブラッド
清水利彦さん
〒540-001
大阪市中央区谷町2-7-4
TEL 06-4790-1212
FAX 06-4790-1211

●HAPPY
灰谷幸さん
〒541-0048
大阪市中央区瓦町4-3-14
御堂アーバンライフ514
TEL 06-6226-1844
FAX 06-6226-1899

あなたも「なにわNEWS」に載ってみませんか?

「こんなイベントしてるでぇ～」
「ちょっとピーアールさせて～」
などなど、この紙面でお知らせを掲載したい会員さんはおられませんか?住所や会社名の変更も受け付けております。

●掲載希望の方は広報部会まで広報部会開催のお知らせは、毎月FAXにて告知しております。

入会について

■入会金■
10,000円〈正会員〉
5,000円〈協力会員〉

■年会費■
36,000円〈正会員〉
12,000円〈協力会員〉

部会活動などにお使い下さい

●本部
大阪市中央区難波1-7-2
SENOYAビル3F
tel・fax（06）6213-5554

●事務局（会議や諸事連絡）
大阪市中央区本町橋2-23
第七松屋ビル1231
tel（06）6947-5260
fax（06）6947-5254

FROM部会

総務部会

5月総会、6月一般例会、7月「なにわ大賞」、8月はサマーパーティ…と、多彩な活動・ユニークなイベントが満載のなにわ名物開発研究会。その裏でいつも超・ウルトラ・スーパー・大活躍しているのが総務部です（ホント、ホント）。

入会から日が浅い会員さんも、とりあえず総務部会に参加していただければ、なにわ名物開発研究会のアウトラインが見えますよ～☆

部長　灰谷　幸

広報部会

広報部会が変わります。

今まで、『なにわ名物開発研究会NEWS』発行だけのイメージが強かった部会ですが、今年の大きな課題として、『ホームページの見直し』作業があります。ぎょうさん、企業訪問し、メンバー独特の【なにわの味】を嗅ぎながら、一味違う、『なにわ名物開発研究会』の『ホームページ』にご期待ください。

参画希望者は、事務局までご連絡ください。

部長代理　木村　裕一

ビジネス交流部会

ビジネス交流部は、「なにわ名物開発研究会」のネットワークを仕事で活用したい会員様のお手伝いを目的として活動しております。

ギフトショー等の展示会に出展を行い、会員各社の対内外PRとビジネスチャンスの創出を目指しております。また、ちんどんパフォーマンスや飲み会、趣味の会合などレクレーション活動も行い、仲良く楽しく活動しております。

ぜひ一度、交流部会を覗いて下さい。

部長　松本　好正

商品開発部会

毎月第3金曜日開催の部会も月々開催され、日々活動中の商品開発部会です。9月は「現地研修会」として「神戸・有馬地区」を見学。11月は月例会を主催し、「発明家」六車氏の講演を企画。

最近は商品開発よりもイベント企画が多く…?

会員の皆様方、遠慮なく商品企画をお持込ください。開発部会員でなくても大歓迎します。アイデア料など一切不要です!みんなでオモロイ商品を開発しましょう!

部長　藤井　学

会員紹介

オダサク倶楽部

〒559-8125 堺市西野九一-六　井村方
電話 FAX 〇七二(二三六)六四六五

ぐうたら亭主としっかり女房の『夫婦善哉』で有名なオダサクこと織田作之助。「大阪市長以上に大阪を愛する」と自認した彼は、戦後焼跡のミナミを歩いて「大阪は産業都市として復興するだけでなく文化都市として復興しなければならない」と大阪ルネサンスを呼びかけた。

そんなオダサクをだしに面白い大阪をつくりたい!といちびりたちが集まった。三年前のオダサク映画祭の成功をきっかけに「なにわ大賞準大賞」を頂いた井村が仕掛人になり、なにわ名物開発研究会の全面協力を得て、今秋別府・湯布院で「夫婦善哉」の上映やまちづくりシンポジウムを行う（十月九～十一日）。

さらに近々オダサク自身を主人公に新しい映画を創造したい。長身のマント姿で御堂筋をカッ歩するヒーローを画面で甦らせよう。大いに笑い、ちょっと涙ぐむ…そしてしみじみわが町＝大阪の行末を考えさせられるそんな映画が出来たらええなぁ。

文責　井村　身恒

石川史雄のこないしゃはったらどうです

第一回　フバスグループ

仕出し弁当「わくわく茶屋」を営む上山さんはラグビーの町花園で今最も元気な男である。3年前に飲食本来の持つ楽しさを広めようと開業。

今や東大阪の仕出し業界でトップにランクされる。成功の秘訣は環境に優しい紙容器の使用と米と調味料にこだわりを持って産地を厳選し、味にうるさいお客の信頼を得たことだ。加えて持ち前のバイタリティで大手事業所を開拓して行ったことにある。問題は利益が薄いことだ。職域弁当は価格を上げることが出来ない。容器代と容器回収費用がバカにならない。

【ズバリ提言】ラグビー見物や花見などのイベント時の特別弁当に力を入れること、現在進行中の「ラグビーに因んだおかず」開発を急ぐこと。

このコーナーは経営コンサルタント経営支援オフィスB・A・Nの石川が会員を訪問して経営課題の解明と成長への道筋をアドバイスします。